

<地理歴史科> (モデル授業)

知識がつながり合う喜びを感じられる授業 ～ジグソー法を通じた深い学び～

教諭 前野良太

はじめに

地誌の授業は、2年生から系統地理的に学習してきた知識をまとめ、ある特定の地域を多面的に考察するという意味合いを持つ。しかしその性格故に、登場する事柄の多くが一度学習したことのあるものであり、復習し、暗記を繰り返す学習になってしまいがちである。そこで、生徒それぞれが知恵を持ち寄って課題を解決するジグソー法を採用することで、知識を整理し、地域の特徴をあらゆる視点から考察することができるようになるのではないかと考えた。

1 取組の概要

(1) 趣旨

- ア 資料を活用して、国の特徴を読み取る力を身に付けさせる。
- イ これまで系統地理的に学習してきた内容を関連付け、地誌的な視点で考察させる。
- ウ 各国の共通点・相違点を探すという作業を通して、国同士のつながりや地域的特色などを発見させる。

(2) 対象

3年3組理系 7人 (男子：7人)

(3) 計画

ア 「東南アジア」について2時間授業を行い、基礎的な知識を身に付けた後、まとめとしてこの授業を実施する。地誌的分野では、地域ごと (特に、「ヨーロッパ」・「北アメリカ」) のまとめを同様の授業形態で行う。今回は共通点・相違点がバランスよく表れる、マレーシア・インドネシア・シンガポールの3国を選択した。

イ 事前に単元「南アジア」において同様の形態で授業を行い、協同学習について理解したうえで今回の授業に臨む。

(4) 方法

- ア 少人数クラスであることを活かし、机をコの字に設置してクラス全員でのグループ活動を取り入れる。
- イ 準備物としてベン図をワークシートに掲載し、各国の共通点・相違点が明確になるよう工夫する。(図1) また、そのまま黒板に貼り付けられる静電気シートを使用する。

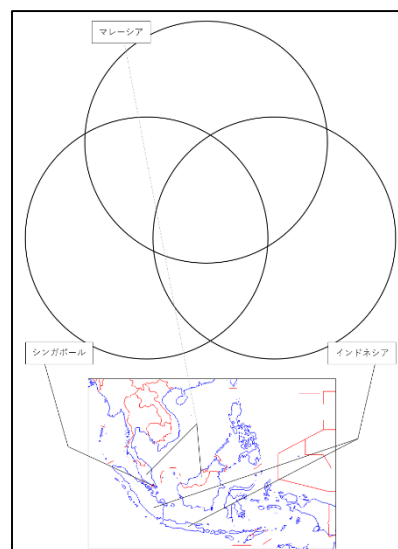


図 1

2 研究内容

(1) 少人数グループ活動

はじめに、7人を3グループに分け、マレーシア・インドネシア・シンガポールの3国について主に二宮書店「データブックオブザワールド」を使用して情報を集めさせた。この教材には膨大な量の情報が掲載されているため、その中から自分たちが求める情報を選び取らせるという活動を通じて資料活用の技能の向上を図った。



写真 1

生徒の手が止まってしまった場合には、ページ数などのヒントを与え、活動を円滑に進められるようにした。グループ内で声を掛け合って手分けしたり、アドバイスをしあったりする姿が見られた。(写真1)

(2) 全体でのグループ活動

ア 集めた情報の共有

次に、各グループが集めた情報を7人全員がそれぞれの役割を担当して話し合い、各国の共通点・相違点について話し合わせた。役割は「ファシリテーター」と「タイムキーパー」が各1名、「記入&説明係」が5名である。ファシリテーターの生徒が他の生徒にうまく指名したり、「タイムキーパー」が時間配分を上手に調整したりしながら円滑に話し合いを進めることができていた。「説明&記入係」もただ調べた情報を述べるだけでなく、「マレーシアも同じじゃないか」や「この特徴はこの国だけだ」などの発言が見られ、生徒が共通点・相違点に気を配って話し合いができていたことが感じられた。

イ 説明

5人の「説明&記入係」で分担し、静電気シートへの記入・黒板への貼り付け作業を行った。シートを黒板に貼り付けるときにはその情報について一言説明をさせた。

(3) 評価

ア 自己評価

授業の初めに図2のような自己評価表を提示し、それに沿ってワークを進めるよう指示した。

	A 3点	B 2点	C 1点	D 0点	得点
特徴を探す	6個以上の項目で特徴を挙げることができた	3個以上の項目で特徴を挙げることができた	1個以上の項目で特徴を挙げることができた	一つも特徴を挙げることができなかった	点
話し合いでの発言	班の中心となって情報を伝えられた	時々、他の班に情報を伝えられた		全く発言できなかった	点
共通点を見つける	議論の中心となり、共通点を見つけることができた	時々、共通点を見つけることができた		全く共通点を見つけられなかった	点
活動への参加	話し合いや用紙への記入、貼り付けなどに、自分から進んで取り組んだ	用紙への記入や貼り付けなどに時々取り組んだ	友達に言われて作業に協力した	全く活動に参加しなかった	点
				合計得点	点

図 2

イ 教員による評価

生徒の活動を観察して、積極的に取り組んでいるのかなどを評価した。

3 成果と課題

(1) 成果

小グループ活動で調べたことを使うと大グループ活動で共通点・相違点がわかるという流れにしたことによって、それらを発見したときに「これも同じなんだ」「意外とこの国だけなんだ」「こんなに多いんだ」といった声を聞くことができた。ただ必要事項を暗記させるのではなく、生徒の頭の中に深く印象付けることができたと感じた。

2年生から7人で授業を受けており人間関係が良好なこともあるが、グループワークに前向きに取り組む姿勢が見られた。役割は分担したものの、例えば記入&説明係の生徒がタイムキーパーの生徒に対し「時間大丈夫？」と声をかけるなど、役割の枠を超えて円滑な進行のために取り組んでいた。どの役割を担当しても主体的に授業に参加する姿勢や他の班員に気を使える協力姿勢が養われた。

また、ただ統計資料を見るだけではなく、他の国のデータと見比べることによってこのデータは特徴的なのかというところまで考察できていたように感じた。当然、データブックには授業で取り上げるほどではない資料も掲載されている。この活動を通じて、本当に必要なデータだけを抽出する資料活用の技能を向上させることができたと感じる。

(2) 課題

前方の黒板に貼り付ける時に一言説明をさせたが、そこでうまく言葉が出てこなかったり、ただ書いてあることを読むだけにとどまってしまう生徒が多かった。ここでの説明の目的は、自分が理解した知識を他の人が理解できるように説明するというもので、この時周辺知識も絡めて説明するよう指示したが、少し難易度が高かったようである。

発表の前に個人で考える時間を設けたり、こちらから必要な情報を提示したりする必要があったと感じる。一つ一つの活動が効果的なものになるよう、その前段階でしっかりと準備をしていきたい。

おわりに

社会科は暗記するばかりではないと日頃から伝えているが、生徒の多くは依然として社会科を暗記するだけの教科ととらえており、その作業に苦手を感じている生徒もいるだろう。自分の知っている知識が他人の持つ知識と繋がり合い、様々な視点から内容を見ることができるようになれば、「社会って面白い」と感じてもらうことができると考える。今後も地理だけでなく社会科全体で、生徒が他の生徒と一緒に学習しながら社会科に興味を持つことができるよう、授業形態や扱う題材を工夫していきたい。

参考書籍

- ・杉江修著
「協同学習入門 基本の理解と51の工夫」(2011年, ナカニシヤ出版)
- ・ジョンソン, D. W. / ジョンソン, R. T. / ホルベック, E. J. 著
「学習の輪 学び合いの協同教育入門」(2010年, 二瓶社)

資料

【地理歴史科 01】 【地理歴史科 02】